

# 尾瀬ネットワーク通信

2003年5月6日 VOL.6, No.2(16)

尾瀬自然保護指導員ネットワーク

## 8月中に認証へ

### NWのNPO法人化

4月12日、埼玉県大宮市の大宮ソニックシティ会議室で開かれたNW総会において審議の結果、法人認証を申請する議案が満場一致で承認された。3年越しの懸案がようやく日の目を見たわけである。

承認を受けた10日後の22日、椎名、大橋、高橋(喬)の3名が所管庁の東京都生活文化局NPO法人係の担当者2氏を訪ね、10点を越える申請書類を提出してチェックを受けた結果、2、3の訂正箇所を指摘され、30日再度申請し、即日受理していただいた。

これは5月からNPO法の一部改正されるための計らいで、椎名、大橋、若松の3氏ともどもあわただしく申請書類作成に取り組んだ努力が報われ、ほつと

4月中に受理された

ことにより、申請書類が3ヶ月間公開された後、8月中には認証・登記の運びとなることがほぼ確実となった。ご賛同いただいた会員の皆さんと、NWを今日まで育てていただいた関係団体に感謝の意を表したい。

なお、現在の団体名のままでは、指導員以外は会員になれないことになって法の精神上からふさわしくないため、正式名称は特定非営利活動法人(NPO)設立総会にて決定した「特定非営利活動法人尾瀬自然保護ネットワーク」となる。

最後に、総会後に作成したため、皆さんに審議しただけなかつた「特定非営利活動法人尾瀬自然保護ネットワーク」設立趣意書の全文を掲載する。NWの全員に対して、この趣意に沿った一層の精進と活動が求められることになると思う。

(高橋喬)

### 設立趣意書

△尾瀬の現状▽

日光国立公園の特別保護地区、国の特別天然記念物に指定されている尾瀬は、貴重な自然の宝庫、日本の自然保護発祥の地であり、学術的価値はもとより芸術・教育・保健等さまざまな分野で多くの人々から愛されている。

しかし、尾瀬では昨今、その利用の在り方を巡って、深刻な問題が顕在化している。いわゆるオーバーユース(過剰利用)を根元とする自然破壊の状況は一向に改善されなればかりか、自然保護を標榜する行政・民間が引き起こした問題さえ露見し、ますます憂慮すべき事態を招いている。

21世紀に入ってから、旧公衆トイレの浄化槽埋設問題、長蔵小屋の廃棄物不法投棄事件、携帯電話の通話可能エリアの特別保護地区への拡大問題、ヘリポート建設計画など過剰利用や観光地型利用

を前提とした開発に伴う諸問題が噴出ししている。また、尾瀬の自然を形成している湿原や沼の富栄養化(汚濁化)は一向に改善されず、湿原、お花畑、登山道の裸地化対策も後手に回っている。

△旧ネットワークの

取り組み▽

こうした事態を深く憂慮したわれわれは、平成9年(1997年)3月に尾瀬自然保護指導員ネットワークを設立。尾瀬を訪れる市民へのフィードおよびシャトルバス内における自然解説、アイドリングストップの呼びかけ、荒廃が著しい至仏山東面登山道調査、尾瀬ヶ原シカ食害調査、後継者育成のための養成講座等を通じて、それなりの成果を上げてきた。これらの活動のなかで、例えば至仏山調査は6年目の平成14年春に参議院環境委員会でも取り上げられ、この結果、環境省も同年夏、調査に乗り出した。

なぜ法人化を希望するか

とはいえ、旧組織は任意団体であるため、われわれの尾瀬の自然保護を巡る提言や抗議の効力には限界があり、行政の担当者のなかには話は聞くが前向きに行動をすることはしない向きも多く、歯がゆい思いをしてきた。また、行政の調査活動等への参加にも制約があるのが現実である。さらに、調査活動を除く自然解説等の活動費(交通費、宿泊代)は各自の負担で、これに対する補助の問題解決も急務となっている。

平成15年4月12日  
設立代表者 高橋喬

## 2003年度総会特別講演要旨 地域の自然生かした環境教育

群馬県立尾瀬高校自然環境科教諭 松井孝夫氏

尾瀬高等学校は平成8年、武尊(ほたか)高校が改称、同年、自然環境科を新設した。定員は40名だが、自然環境棟(校舎)や自然植物園を設け、その開設予算だけで普通高校1校分の建設費に匹敵するとされる。

同科の特色を上げると枚挙にいとまがない。学校の環境そのものが、利根村と片品村の豊かな自



尾瀬校 松井孝夫先生  
(撮影・佐藤信良)

然に囲まれ、キーワードは「自然との共生」。自然を人間から隔離するとは難しいから、国立公園や里山などの自然が豊かかどうか正しく判断できるバランス感覚のある人間を育てることを目指している。

### 尾瀬をなぜ守らねばならないか答えはない

専門科目の中に「総合尾瀬」があるが、これは併設の普通科でも学んでいる。自然だけでなく、経済圏としての尾瀬は広い。片品村は豊かな自然を観光資源として成り立っている。尾瀬とのかかわりを学ぶことは、地元の高校にとって重要な学習テーマである。

ただし、生徒の「尾瀬をなぜ守らなければなら

ないのか」という質問には、どの教師も答えないことにしている。生徒自信が解答を見つかるまで考え、行動することで、理論としてではなく、経験として自然の尊さや自然保護の必要性を学ぶという自主性を尊重する建前だからだ。

フィールドでの学習時間は多い。1年生は自然観察会が中心だが、至仏山東面登山道の植生回復作業にもボランティアとして参加している。2年生になると動植物や地質などの総合調査が主で、沖縄修学旅行では「やんばるの森」を調べた。

3年生になると、1年生の自然観察会を指導したり、横浜の小学校の尾瀬ヶ原ガイドをしたり、地元の中学生を対象に自然観察会を行ったりしている。

### テストはない

室内の学習もユニークだ。すべて複数の教師で授業を行う。黒板は使わ

ず、生徒はフィールドノートに書き留める。ペーパーテストもない。

全国でただ1つの自然環境科だけに、全国から生徒が集まってくる。こうした生徒を受け入れているのが「尾瀬ハートフルホーム・システム」。地元の家庭にホームステイしながら通学する仕組みを整えている。

松井氏は群馬県立沼田高校から「どうしても入学したかった」という千葉大学園芸学科を卒業。尾瀬高校に赴任して8年になる。

松井氏は沼田高校で長蔵小屋4代目、平野太郎氏と同期で、仲が良かったという。松井氏は「彼が廃材や空き缶などの不法投棄事件に直接関わったとは信じていない。そんなことをする男ではない」と断言。できるだけ早い機会に再会し、長蔵小屋の名誉回復に向けてじっくり語り合いたいと言っている。

文責・高橋喬

# 2003年度活動計画

4月12日大宮ソニックシティにて2003年度の尾瀬自然保護指導員ネットワーク総会が開催された。出席者数は21名、委任状提出者数23名だった。

主な議題は2002年度活動報告、2002年度会計報告、同会計監査報告、2003年度活動計画案、予算案、NPO法人化検討で、大半の時間がこれの討議に割かれた。2002年度活動報告はおおむね前号までに各担当幹事より報告があった通りである。

また、前号に掲載した現地活動計画案と日程が総会にて承認された。現地活動を含め、2003年度の主な活動は左記のとおりとなった。なお、活動途中で法人化の予定だが、活動はそのまま引き継がれる。

・福島県側入山指導

- ・群馬県側入山指導
- ・至仏山調査
- ・指導員養成講座
- ・尾瀬ヶ原シカ調査
- ・全修協ガイド
- ・尾瀬ネット通信発行
- ・メイリングリスト及びホームページ運営

## 福島県側現地活動

本年度の福島県側の現地活動は左記の日程で開催いたします。

- 第1回 5月23日?? 25日?
- 第2回 6月13日?? 15日?
- 第3回 7月19日?? 21日?
- 第4回 8月8日?? 10日?
- 第5回 9月19日?? 21日?
- 第6回 10月11日?? 13日?

参加希望者は参加可能な回を担当幹事磯部または佐藤までお知らせください。

参加申し込み連絡先

〒 [redacted] [redacted]

磯部 義孝  
FAX [redacted]

〒 [redacted]  
佐藤 信良  
?・FAX [redacted]

宿泊先は松枝岐村「ひのき屋(電話0241-75-215)」です。各回初日の夕方18時までには宿泊先に到着するようにご参集ください。

食事については、特に指定がない限り初日の夕食より最終日の朝食まで準備する手配を取らせていただきますが、変更希望の方は申込時に併せてご連絡ください。

例年同様、各回の参加者の中から班長の依頼をお願いします。班長は、活動の取りまとめをよろしくお願い致します。本年度も昨年度同様、左記の活動を予定しています。

## 尾瀬ヶ原シカ調査

本年度も昨年同様2回実施します。調査は初日の夜半行います。

- 第1回 7月5日?、6日?
- 第2回 9月6日?、7日?

宿泊場所は山ノ鼻地区の尾瀬ロッジです。

参加希望者は担当幹事坂本までお知らせください。

参加申し込み連絡先

〒 [redacted] 坂本 敏子  
?・FAX [redacted] (坂本 敏子)

## 第7回至仏山調査

本年度は7月11日?夕方戸倉「一仙」に集合し、12日?の早朝より山の鼻から至仏山に入るコースで調査を行う予定であります。募集要項をご参照の上、参加希望者は担当幹事永島までご連絡ください。

- ・会津バス添乗解説
  - ・アイドリング・ストップ運動
  - ・御池に案内所設置し、尾瀬についての情報提供
- (磯部 義孝 佐藤 信良)
- ## 群馬県側現地活動
- 本年度の群馬県側の現地活動は左記の日程で開催いたします。
- 第1回 6月6日?? 8日?
  - 第2回 7月4日?? 6日?
  - 第3回 9月5日?? 7日?
- 参加者は参加可能な回を担当幹事山本までお知らせください。
- 宿泊先は戸倉「アップル」(電話 0278-58-7052)です。
- 参加申し込み連絡先
- 〒 [redacted] 山本 誠剛  
?・FAX [redacted] (山本 誠剛)



〒  
[Redacted]  
永島 勲  
[Redacted]  
?・FAX  
[Redacted]  
(永島 勲)

### 第4回指導員養成講座開催

本年度の指導員養成講座は8月28日(土)～31日(火)の日程で実施いたします。募集人員は10名、受講料は3万6000円です。お知り合いの方で尾瀬ネットの活動に興味のある方に募集要項をお渡しいただければ幸いです。申込先は事務局となっておりますのでご注意ください。(永島 勲)

### 都岳連に本戸氏

NWから講師に派遣  
東京都山岳連盟は7月12(土)～13日の日程で、新人ガイドの研修会を尾瀬エリアで実施するため、NWに初めて講師の派遣を要請してきた。本戸信男指導員を派遣する。

定員20名でコースは鳩待峠～アヤマ平～富士見小屋(泊)～尾瀬ヶ原～山の鼻～鳩待峠の1泊2日。

### 全修協には椎名、田中、棚橋の3氏

一昨年から再会された全国修学旅行研究協会大阪事務局主催の「グリーン季教職員研修旅行団」が、15年度も5月28(土)～30日の2泊3日で実施される。NWへの講師依頼があり、椎名宏子、田中志朗、棚橋収の3氏が同行解説することになった。

参加者は京都府、滋賀県、奈良県、和歌山県の現・退職教職員と家族など40名。コースはロツジ長蔵(夜オリエンテーション)～鳩待峠～尾瀬ヶ原三又～竜宮～見晴～東電小屋(泊)～ヨツピ橋～山の鼻～鳩待峠。  
NWからは第2日目にオプショで温泉小屋～三條の滝～東電小屋を提案している。

(高橋 喬)

### 尾瀬ネット

### ホームページ開設

長年切望されてきた尾瀬ネットのホームページが開設いたしました。ホームページのURLは左記の通りです。  
<http://homepage.mac.com/ozenet/>



尾瀬の植物の緑、豊富な水をイメージしたデザインとなっております。NWのホームページで公開していく情報は尾瀬を訪れるかたがたのための資料提供というより、今尾瀬で起きている問題、動向、破壊の現状の資料および、そのことに対してNWがどのような対応

### 会費納入のお願い

(若松 真)

総会に参加された方は、後日の会費の納入の手間を省くために、総会会場にて会費および希望者にはスポーツ保険の加入料納入手続きを取らせていただきます。ご協力ありがとうございます。ご協力ありがとうございました。  
総会に参加できなかった方には、振込用紙を同封しました。未納入の方は、五月末までに納入して下さい。  
振込用紙には氏名、現住所、電話番号をご記入

ください。またスポーツ保険へ加入される方は年齢をお書き添えください。  
年会費は3000円、スポーツ保険料は1500円です。スポーツ保険は任意加入です。スポーツ保険の詳細につきましては事務局までお問い合わせください。  
(大橋 文江)

尾瀬自然保護指導員ネットワークとは、既に解散した尾瀬の自然を守る会の自然保護指導員の有志が一九九七年三月に設立し、「尾瀬の自然保護活動を実践」している民間のボランティア団体です。

尾瀬自然保護指導員  
ネットワーク  
〒100-0014  
東京都千代田区永田町  
二のー七の五の二〇三  
(株)SEC内  
電話 03-3581-0321  
FAX 03-3581-2178  
代表幹事 高橋 喬  
事務局長 椎名 宏子  
編集幹事 若松 真